

平成 30 年度第 2 回高知県産業振興計画フォローアップ委員会水産業部会 主な意見等

日時：平成 31 年 1 月 18 日（金） 13:30～15:30

場所：高知サンライズホテル

出席：部会員 10 名中 8 名が出席

議事：（１）第 3 期産業振興計画＜水産業分野＞の平成 30 年度の進捗状況等
（２）第 3 期産業振興計画＜水産業分野＞の平成 31 年度の改定のポイント

概要

- ・進め方についての意見はあったものの、進捗や改定のポイントについて反対意見はなし。
- ・「イワシ活餌の安定供給」や「外国人人材の活用」について多数意見があった。

（１）第 3 期産業振興計画＜水産業分野＞の平成 30 年度の進捗状況等について

（山下部会員）

- ・輸出の補助事業の対象を養殖魚から水産物全般に広げると説明があったが、どのような内容か。

（濱田水産流通課長）

⇒対象は水産物全体に広げるが、輸出には一定のロットが必要となるため養殖魚が中心という考えが基本。東南アジアではキンメダイ等を中心に天然魚の人気の高いこと、これまでも天然魚が養殖魚とともに輸出されていること等から高知県の多種多様な魚と合わせて養殖魚のさらなる輸出の拡大を図りたい。

（浦尻部会委員）

⇒昨年、宿毛の業者が輸出した際、養殖魚だけでなくキンメダイやサバ等を詰め合わせて輸出したが、このような取組と考えてよいか。

（濱田水産流通課長）

- ・昨年の 10 月、宿毛の水産会社がベトナムに向けて高知新港から冷凍の魚を輸出した。その際にも、養殖のブリやマダイとともにキンメダイやイサキ等、計 14 魚種を冷凍で出荷した。このような取組が広がるように支援を行ってまいりたい。

（谷脇水産振興部長）

⇒県全体の話でいうと、これまでもゆずや日本酒では本格的な輸出に取り組んできた。今後は農業振興部においても果物や野菜の輸出に取り組んでいく考え。

（浦尻部会員）

- ・土佐清水で計画している残渣加工とはどのようなものか。

（濱田水産流通課長）

⇒フィッシュミールを製造することを指す。

（浦尻部会員）

- ・韓国のキムチのだし等、何か高値で販売できる方法はないか。宿毛ではマグロ等の大規模加工施設の建設を進めており、加工場から出る残渣でさらに価値を創出することができれば良いと考える。

（山下部会員）

- ・残渣は用途別に扱っていく必要があり、当社では枕崎を参考に濃縮エキスを製造等に取り組んでい

る。枕崎では肥料用では3千万円にしかならなかったものが濃縮エキスを製造することで3億に伸びたと聞いている。いずれにしても成分分析の結果が必要となるため、当社では煮汁等の成分分析を行っているところ。

(2) 第3期産業振興計画<水産業分野>の平成31年度の改定のポイント

(浦尻部会員)

- ・イワシ活餌の安定供給については以前にもお願いした経過もあり、待ちに待った良い取組と考える。高知だけでなく宮崎、鹿児島19トン船が本県に水揚げすることを期待したい。土佐湾での火光利用については過去には色々あったが、時代が変わり、このような取組を行うことで本県の漁業が繁栄していくことを願う。さらに、佐賀にスマート市場ができれば、宿毛や土佐清水にも九州の船が水揚げするようになると考える。

(池漁業管理課長)

⇒浦尻部会員がおっしゃられるようなことを目標に取組を進めていきたい。澳本部会長にも事前に実施場所や漁業者について相談させていただいた。まずは地元で受け入れられるかどうかが一番のポイントであり、最初は時期や場所を限定し、ごく沿岸で試験的に操業していく。まずは委託事業でどのようなイワシがどのような時期に獲れるのかを明らかにし、次の段階としては活餌供給基地として地元に着地させていく。最終段階としては資料に示すように県内に活餌供給基地が増えていくことを目標としている。

(浦尻部会員)

- ・定置網漁業への企業誘致については、定置網が再開することで地域の活性化に繋がることが期待される。県が中心となって地域と企業が共存共栄を図れるように取り組んでいただきたい。

(池漁業管理課長)

⇒現在調査を行っている地域では、昔は定置網があり漁村に賑わいがあった、企業でも構わないので定置網を再開してほしいという声がある。人の問題は企業への相談や国、県事業の活用等によって取り組んでいきたい。共存共栄を図れる定置網の再開に取り組んでいきたい。

(浦尻部会員)

- ・水産物の輸出については何年後にゆずを超えることができるか。

(濱田水産流通課長)

⇒食品ではゆずや日本酒が大きな輸出品目であるため、追いつけるように取り組んでいく。

(山下部会員)

- ・新日鉄が境港や三重県で水深30m規模のマダイ養殖を行っているとの話を聞いている。小割の規模は通常の3~4倍で、自動制御のもと、餌はエアで流し込んでいるとの話。莫大な費用がかかっていると思うが、このような取組に対してどのように考えるか。

(岩崎漁業振興課長)

⇒過去には沖合養殖に取り組んだ経過もあるが、土佐湾では難しかった。高知マリンイノベーションにも関連するが、県としては漁業のIoT化、ICT化に積極的に取り組むとともに、国の事業の活用も視野に入れ、取組を広げていきたい。

(澳本部会長)

- ・マグロやブリ稚魚の人工種苗生産については、マグロやブリの養殖用の種苗の採捕を生業としてい

る組合員がいるため、既存漁業者の経営を圧迫しないように事業を進めていただきたい。

(宮本副部長)

⇒モジャコ漁業者等の経営の圧迫に繋がらないように取り組んでいく。一方で、一昨年の本県ブリ養殖生産量は6,500トン程度に落ち込んでおり、モジャコが少なかったことが要因の一つと考えている。過去の平均では生産量は8,000から9,000トン程度であり、天然魚で補えない部分や輸出向けについては養殖業者の生産量を維持する視点で取り組みを進めていきたい。クロマグロについても資源の問題や、輸出の切り口からも人工種苗の確保が必要と考える。

(岩崎漁業振興課長)

⇒事業内容については、モジャコ漁業者にしっかりと説明し、ご理解をいただいたうえで事業を進めていく。

(澳本部長)

- ・遊漁船業の振興は良いことだと思うが、組合員には遊漁船業に対する拒否反応がある。漁協としても慎重に取り組んでいきたい。

(西山水産政策課長)

⇒ご指摘のとおり従来の漁業者との調整は不可欠と考える。今年度取り組む中、地元漁業者との調整によって商品化が難航している事例もある。遊漁の商品化では天候や季節といったさまざまなハードルがあるため、食との組み合わせ等、代替え案が不可欠と考える。地域の様々な素材を組み合わせることで商品化に繋げていきたい。漁協の調整に期待する部分もあるためご協力をお願いしたい。

(澳本部長)

- ・イワシの活餌は良いことだと思う。地元の漁業者に説明したところ、ぜひやりたいという漁業者が多くいる状況。地元調整のもとで進めていただきたい。鹿児島や佐世保等の県外の活餌場は規模が大きいため、先進地の知見を参考に取り組みを進めていただきたい。

(宮本水産振興部副部長)

⇒県外の有名な餌場を目指すということも必要ではあるが、一番の課題は漁業調整と考える。まずは土佐湾で安定的に活餌を供給できる体制を整備していきたいので、ご協力をお願いしたい。

(浦尻部会員)

- ・漁業就業支援センターの設置は良いことだと思う。外国人技能実習生はまぐる船だけでなくまき網にも入ってきており、働く人がいない時代になってきている。漁業就業支援センターに受け入れ組織を担っていただくか、水産と農業が協力して受け入れ組織を作る等、検討していただきたい。働く人がいないとクラスターの形成も実現できないため、5年後、10年後を見据えた検討をお願いしたい。

(岩崎漁業振興課長)

⇒平成12年から国の事業も活用しながら就業者の確保に取り組んできた。過去には8千人いた漁業者が4千人を割っている状況。新たな組織を立ち上げて就業者の確保等をバックアップしていきたい。漁業就業支援センターでの外国人の受け入れについては現段階ではハードルが高いと考える。

(山下部会員)

- ・外国人労働者の受け入れは、まき網や定置網といった一定規模の経営体では可能と考えるが、土佐清水のような釣り漁業では一人の漁業者が一人の外国人を雇うことにはならないため困難と考える。県として方向性を示していただきたい。

(谷脇水産振興部長)

⇒外国人労働者については全庁横断的な取組を始めたところ。国の方針は出ているが、具体的な支援策についてはこれから出てくることが予想される。水産振興部としても情報収集しながらしっかり取り組んでいきたい。

(澳本部長)

- ・どの産業も人がいないことが問題になっている。定置網においても企業参入によって今経営している定置網の人員がとられるという心配もある。外国人労働者に頼るしかないと思うが、ビジョンを持って取り組む必要がある。

(浜町部会員)

- ・外国人労働者の国の支援については具体的な話は決まっていないのか。支援はいつ頃から始まるのか。

(谷脇水産振興部長)

⇒国の方向性や支援策もまだまだ漠然とした内容のため、しっかりと情報収集に努めていく。国の動きを見ている段階。

(浦尻部会員)

- ・ぜひお願いしたい。外国人技能実習生の受け入れに係る事務は相当な量であり、合併していない漁協には難しいと考える。漁業就業支援センターが一元的に外国人を受け入れるか、農業振興部と連携して受け入れを行う等、産地がスムーズに受け入れが行えるよう支援をお願いしたい。

(澳本部長)

- ・本日出た意見を参考にしっかりと取り組んでいただきたい。改定のポイント等の方向性については事務局が示した案でよろしいか。

(部会員)

- ・異議なし。